

## 新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

# 小学校外国語活動

### 1 新設の趣旨

- 社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際競争も加速している。
- 中学校において初歩的な外国語により行われる、あいさつ、自己紹介などの活動はむしろ小学校段階での活動になじむものと考えられる。中学校に入学した段階で4技能を一度に取り扱う点に指導上の難しさがある。
- 外国語活動を義務教育として小学校で行う場合には、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。

### 2 新設の要点

#### (1) 教育課程上の位置付け

- ア 外国語活動として、第5学年及び第6学年において、それぞれ年間35単位時間を確保する。
- イ 英語を取り扱うことを原則とする。

#### (2) 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

- 言葉への自覚を促し、体験を通して国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めることで言葉の大切さや豊かさ等に気付かせる。
- 外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成する。
- 体験的に「聞くこと」「話すこと」を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てる。

「コミュニケーション能力の素地」とは

小学校段階で外国語活動を通して養われる、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを指したものであり、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるものである。

#### (3) 内容の要点

- ア 「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る」ための内容と、「日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深める」ための内容から構成される。
- イ 「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる」ことは、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めさせる内容の中にも含める。


パターン・プラクティスやダイアログの暗唱など、音声や基本的な表現の習得に偏重して指導したり、「聞くことができること」などのスキル向上のみを目標とした指導は、本来の外国語活動の目標とは合致しない。

#### (4) 指導計画の作成と内容の取扱いの要点

- ア 言語や文化については体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにする。
- イ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、学級担任又は外国語活動を担当する教師が行う。

### 3 新学習指導要領全面実施に向けた授業づくり

#### (1) 内容

コミュニケーションに関する事項	
(1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。 (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。 (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。	
【活動例】 <ul style="list-style-type: none"><li>○ 児童が使える外国語を駆使し、さまざまな相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験させる。</li><li>○ あいさつや自己紹介など、音声を中心とした活動を行う。</li><li>○ 実際に言語を用いてコミュニケーションを図る体験を通して、それらの大切さに気付かせる。</li><li>○ 普段使い慣れていない外国語を使用させることによって、言語を用いてコミュニケーションを図ることの難</li></ul>	

しさを体験させるとともに、その大切さも実感させる。

**言語と文化に関する事項**

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

**【活動例】**

- 英語で歌ったりチャンツをしたりすることを通して、英語特有のリズムやイントネーションを体得させる。
- 外来語を扱った活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気付かせる。
- 漢字やアルファベット、さまざまな地域で話される英語を扱った活動を通して、言葉の表し方の違いや言葉の多様性を知り、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。
- 異なる文化を持つ人々との交流・体験を通して、児童が日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くようにする。例えば、世界の食事を扱った活動を通して、国や地域によって食事の習慣が違うことや、ジェスチャーを扱った活動を通して、同じ意味を表すにも国や地域によってさまざま方法があることに気付かせる。

**(2) 内容の取扱い**

- ア 児童の発達の段階を考慮し、児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定する。
- イ アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる。
- ウ ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにする。
- エ 外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化への理解を深めることができるようにする。

**【コミュニケーションの場面と英語表現の例】**

(ア) 特有の表現がよく使われる場面	
あいさつ	[例1] A: Hello. How are you? B: I'm fine, thank you. [例2] A: Nice to meet you. B: Nice to meet you, too.
自己紹介	Hi, my name is Taro. I like sushi. I don't like tennis.
買物	[例1] A: Do you have blue shoes? B: Yes, I do. / No, I don't. [例2] A: What do you want? B: Banana, please.
食事	A: What would you like? B: Soup, please.
道案内	A: Where is the post office? B: Go straight. Turn left / right.

(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面	
家庭での生活	A: What time do you get up? B: I get up at 6:00.
学校での学習や活動	On Monday, I study Japanese, math and science.
地域の行事	Let's clean the beach.
子どもの遊び	[例1] Rock, scissors, paper. One, two, three. [例2] I can play <i>kendama</i> .

**【コミュニケーションの働きと英語表現の例】**

(ア) 相手との関係を円滑にする	・礼を言う Thank you. ・ほめる That's right. Good. ・丁寧表現 A: What would you like? B: I'd like pizza, please.
(イ) 気持ちを伝える	A: How are you? B: I'm fine / happy.
(ウ) 事実を伝える	A: What's this? B: It's a rabbit.
(エ) 考えや意図を伝える	・発表する I like soccer. I want to be a soccer player.
(オ) 相手の行動を促す	・道案内をする Go straight. Turn right.

**4 移行措置**

移行期間中から各学校の裁量により授業時数を定めて実施することが可能で、総合的な学習の時間の授業時数を各学年ごとに35単位時間まで外国語活動に充てることができる。